

おすすめグルメ

バナトイベーグル 川越店

今回は、川越駅東口から徒歩5分ほどにあるベーグル屋さんの紹介です。こちらにも私が訪問の途中でよく購入するお店です。写真はエビとアボカドサンドです。ボリュームもありランチにぴったりです。



ニュース

自立生活援助事業所ヨハク 始動

令和6年9月に指定申請が完了し、法人としては3つ目の事業となる「自立生活援助事業」が始動しました。この事業では、主に一人暮らしを始めた方々の様々な相談や調整など具体的な直接支援を含めたサポートになります。これにより多くの方々が地域で安心して暮らせるお手伝いができたらと考えております。

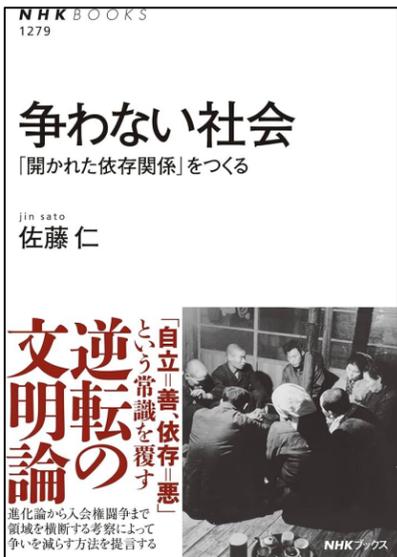
おすすめBOOK

【争わない社会 「開かれた依存関係」を作る】 著者 佐藤 仁

本書は、通常ネガティブに捉えらる「依存」という概念を再評価していただきます。特に問題とされているのは、依存そのものではなく、依存先が限られて逃げ場がない状況に置かれることです。このような状況に対して問題提起を行い、依存が悪いという一面的な見方を問い直しています。

さらに、争いや援助の関係において特に重要な要素として、援助が入る前の社会的な状況や地域の人々が持つ相互依存のあり方に注目しています。そして、援助が目指すべき「自立」は、依存を完全に排除することではなく、別の形で依存関係を構築することだとされています。

また、争いは「分ける」ことから生じるという考えをもとに、本書は意図的に「分けない」という社会的実践を提案し、その可能性を模索しています。



深谷太一弁護士 連載コラム⑧

【精神医療・

福祉分野の人権③】

※読者の皆様からの質問やご意見をお待ちしています。

ご要望があり、精神障害のある方の

「強制入院」について書いてみます。

一例として、精神障害のある方が自ら入院の必要性を判断できないとして医療保護入院となる場合があります。しかし、医療や入院に関する「判断能力」に問題があるとして強制入院とすることは、本人の自己決定を否定することとなります。「判断能力」は、科学的・客観的現象ではなく、社会的・政治的な要素に左右されるものであり、また、人間の内面を正確に把握できるという誤った前提に立脚していると指摘されています（障害者権利委員会一般的意見1号14・15段落）。

「障害者の権利に関する条約」では、障害があっても、選挙権、財産、他の権利を有し、行使する主体となることが否定されず、ならず、むしろ、必要な援助をすることが定められています（12条）。そのため、「判断能力」に問題があるとして医療や入院に関する自己決定が否定され、強制入院とすることはなく、自己決定のために必要な援助をすることが求められています。

障害者権利委員会一般的意見1号14・15 ↓

